

仮訳

「FDA、水産局、タイ原子力庁、タイ国家原子力技術研究所と協力し、日本からの輸入水産物の検査基準を定める」

日本が 2023 年 8 月 24 日に、福島第一原子力発電所の汚染水海洋放出を開始した。日本側の処理水放出については、放射性物質の濃度が規制基準 (Regulatory Standards) および世界保健機関 (WHO) が示す飲料水の基準 (Guideline level) を下回り、国際原子力機関 (IAEA) から汚染水放出に関し、承認を得ている。この状況を受けて 2023 年 8 月 25 日に、タイ保健省食品・医薬品局 (FDA) のルートチャイ・ルートウッド副局長、タイ水産局 (DOF) のターウォン・タンチャイ副局長、タイ原子力庁 (OAP) とタイ国家原子力技術研究所 (TINT) の代表者らと日本からの輸入水産物の監視策と検査基準を定めるための協議を行った。

FDA のルートチャイ・ルートウッド副局長は、水産物の輸入に関して DOF 検査所、FDA 検査所が OAP と TINT と協力し、基準値を超える放射性物質汚染の食品の輸入を防止するために厳格な検査を行っており、基準値以上のものを見つけた場合は直ちに回収し、輸入を停止すると説明した。消費者に対し安全性について不安を持たないようにと呼びかけた。

DOF のターウォン・タンチャイ副局長は、タイ農業協同組合省 (MOAC) と保健省が監視策と検査基準を定めると述べた。MOAC は農産品、食品の安全強化に注力しており、消費者に輸入農産物および水産物の検査制度を信頼してほしいと呼びかけた。

2011 年の福島原発事故以来、FDA 検査所は 1,000 件以上の日本からの水産物のランダム検査を行った。サンプルは放射性物質検査のためタイ高等教育科学研究イノベーション省 (MHESI) 傘下の原子力庁に送付されている。タイ保健省告示に基づいた基準値以上のサンプルは見つかっていない。また、日本の厚生労働省のデータによると、2022 年から 2023 年 4 月までの 4,375 件の福島県の水産物および水産加工品の検査結果でも、タイ保健省の基準値以上の放射性物質汚染のサンプルは見つかっていない。

FDA 副局長は、FDA は DOF、OAP、TINT と協力し、輸入食品に対する厳格な監視施策を行っていると述べた。汚染されている場合、回収および廃棄を行う。国民に FDA と DOF の対応を信頼してほしいと呼びかけた。また、全方位に情報収集を行ってほしい、政府は国内外の情報を収集し、危険な食品だと判明した場合は直ちに国民に知らせる。消費者においても食品に関して危

険である可能性があるとする場合は、FDA ホットライン 1556 または各県の保健事務所まで通報すること。

2023年8月25日発表/プレスリリース 173/2023年度

【免責条項】

この日本語訳は、タイ政府による公式日本語訳ではなく、情報提供を目的に、ジェトロバンコク事務所が作成した非公式なものです。正確性を保証するものではありませんので、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

原典については、下記をご覧ください。本 URL は 8 月 28 日時点で有効であることを確認しておりますが、今後 URL が変更・削除される可能性もございます。

(ウェブページ)

<https://www.fda.moph.go.th/news/%E0%B8%97%E0%B8%B0%E0%B9%80%E0%B8%A5/>

(PDF)

[https://www.fda.moph.go.th/media.php?id=535804439630585856&name=%E0%B8%82%E0%B9%88%E0%B8%B2%E0%B8%A7%E0%B8%81%E0%B8%B1%E0%B8%A1%E0%B8%A1%E0%B8%B1%E0%B8%95%E0%B8%A3%E0%B8%B1%E0%B8%87%E0%B8%AA%E0%B8%B5%20\(Final\).pdf](https://www.fda.moph.go.th/media.php?id=535804439630585856&name=%E0%B8%82%E0%B9%88%E0%B8%B2%E0%B8%A7%E0%B8%81%E0%B8%B1%E0%B8%A1%E0%B8%A1%E0%B8%B1%E0%B8%95%E0%B8%A3%E0%B8%B1%E0%B8%87%E0%B8%AA%E0%B8%B5%20(Final).pdf)

仮訳

日本から輸入する食品の放射性物質汚染を懸念
FDA と水産局に対し対策について早急に説明を求める

2023 年 8 月 24 日

タイ消費者評議会は、本日開始された日本における処理済みの放射能汚染水の海洋放出に関する報道を受け、タイ消費者が危険物質を含有する水産物を消費し、健康への被害を引き起こす恐れがあるとして、FDA と水産局に対し、日本から輸入する水産物の汚染物質に対する防止・対応策について早急に説明を行うよう表明した。

日本は 2023 年 8 月 24 日から、福島第一原子力発電所の処理済みの放射能汚染水の海洋放出を開始し、国際原子力機関（IAEA）は放水計画について、安全である上に国際的な安全基準と合致していると発表した。しかし、同計画は日本国内外から、水産物の安全性と消費者の健康への影響を懸念し、反発を受けている。

同 24 日に、タイ消費者評議会の食品医薬品・健康製品分科会長パーヌチョート・トーングヤング氏は、FDA と水産局に対し、危険物質汚染問題への予防、検査に関する対策および起こり得る問題への対応方針について説明を行うように要求した。さらに、放射能汚染された食品の消費に関するリスクの軽減および消費者の心配を和らげるために、放水開始後は検査所や市場での輸入水産物の抜き取り検査などの対策を実施するとともに、消費者に周知するようにと訴えた。

パーヌチョート氏は、「放射能の汚染は目で見ることが出来ず、消費者は食べた動物の肉が汚染されているかどうかは判断できない。健康・食品の安全性を保つために、消費者に自信を持たせるように、関連機関が正しい情報および消費者のやるべきことを発信しなければならない。」と述べた。

2022年の日本からタイ向け水産物の輸入量は12万8,079.88トン、輸入額64億172万バーツに相当する（タイ水産局、2022年1月～10月）。また、タイ税関のデータによると、2022年に日本からタイ向け水産物の輸入は10万トンを超えている。タイ全国で加工されたり、スーパーやレストランで販売されたりする可能性がある。2022年のタイにおける日本食レストランは5,325店舗あり、バンコクと地方ともに前年より増加している。これらの日本食レストランが汚染された水産物を使用していれば、消費者は放射能汚染の水産物を消費してしまうリスクがある。すなわち、リスク状況が軽減するまで監視措置が必要である。

【免責条項】

この日本語訳は、タイ政府による公式日本語訳ではなく、情報提供を目的に、ジェトロバンコク事務所が作成した非公式なものです。正確性を保証するものではありませんので、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロおよび執筆者は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

原典については、下記をご覧ください。本URLは8月28日時点で有効であることを確認しておりますが、今後URLが変更・削除される可能性もございます。

https://www.tcc.or.th/240866_news_radioactive_seafood-japanese/